

おわりに

実盛雅夫

会長 山内春芳

編集終わってみたい

徳永良行

「さろまむかしむかし」の発刊について、本の終わりについて、何か書いてくれないかと事務局の上伊沢氏からの言葉、

私は、「発刊にあたりて」を書かしてもらっていますので此処では、私の言葉は、会員の皆様や、会員外の方々のご協力下さった方に『ありがとうございます』の御礼を述べますだけにします。

「さろまむかしむかし」編集終わってみたい、完成まで思い起こせば、感無量なことばかりです。資料集めるのに、いろいろな方のご家庭を訪れました。皆さんはどなたも親切にお話をして下さいます。本当にあり難い思いで、編集に当たることができました。

町役場にあつた資料にも貴重なのがありまして、お許しを頂き掲載させて頂いたのもあります。それぞれの課の佐呂間の歴史に対しての、職員のご理解を頂いたことで助けられたこともありました。

会員以外の方に、貴重な原稿を、お忙しい中に書いて下さって、本の中身の充実にご協力、この場で厚くお礼申し上げます。

お世話になった方々のこと詳しく、ご披露するべきなのですが、省略する失礼を、お許し願って、編集に当たった私の、終わってみたいの感想とします。



平成元年の始め、上伊沢洋氏と、徳永良行氏とが来て、平成六年が、佐呂間町が開基百年になるから、百年史にかかれなような隠れている話や、書かれても詳しく書かれないう記事や、判るだけ集めて書いてみたいと思つて、図書館活動の中でやっていたが、色々都合があつて図書館活動としてはやれなくなつたので、文化連盟の方の中に、「郷土研究会」と言う名の一つのサークルとしての籍を作つて貰えないかと言われたので、「それは良いことだ、文連の中で、佐呂間の開基からの特殊な記事を書く本を作るなら、意義のあることで、私も何か気のついたことを書かしてもらおう」と言つて、佐呂間町文化連盟の中の一つのサークルとして、手続きをしました。

「郷土研究会」が、文連に籍をおいて発足したのが、あれは確か平成一年の、四月一六日でした。

翌日、北海道新聞に、そのことが写真入りで掲載されたのを見て、あつ、こりゃぼやぼやしておれないなあと思ひました。

どうとう何とかかんとか、「さろまむかしむかし」としての書名の本が、発刊の運びとなつたので、正直の話ほつとしているところです。

郷土研究会の

仲間になれて

室井四郎

上伊沢洋さんから「ふるさとのルーツを本にする会」に誘われて五年になります。

文書書きなど不得手な無学の私ゆえ、躊躇しておりました。然し、矢の如く流れ行く歳月は、私を間もなく七〇歳にし、生まれ育てられたわがふるさと「さろま」に、百年記念を迎えさせるのである。そして更に休む事なく流れさって行くのだ。今、開拓の先人宗祖の苦勞に、感謝を捧げながら、その事績と、忘れ去られようとしている物語を、古老の語りを頼りに、更に自ら調べて書き残しておくことに、大きな意義を感じ、仲間にごさせて頂きました。

然し、目の前の事に追われ、幾何の事も出来ぬままに時間が来てしまいい残念です。

この「さろま・むかしむかし」が、この先幾十年か過ぎた後に目にした人が、ふるさとの昔を、そして、先人が草創期の佐呂間の村造りや、生活のことなど忍んで頂けたなら、望外の喜びであります。

この本の収録・編集に上伊沢洋さん、徳永良行さんの特段の努力に、敬服の念を捧げながら、私の後記と致します。

一九九四年六月

終わりにあたり

人は、生活の忙しさ故か

過ぎ去っていく時間を思う、気遣いを、忘れてるのが普通かとおもいます。

ましてや、隣のお爺さん、お婆さんといった身近の、いわゆる庶民の昔の事など、ありふれ過ぎて、本にまとめようなどと言う事に必要を感じ、実際に取り組もうとする者は、少々、変人の部類に入るのかも知れません。

「さろまむかしむかし」は、佐呂間に住むそうした、少々、変人が集まって作り上げた庶民の作った、庶民の「さろまの昔話」の本です。

御陰様で、百年事業の片隅に取り込んで頂き、補助もいただきました。

多くの方のご協力と御尽力をいただき、どうか、一冊の「佐呂間の町の本」を発売する事ができました。

ありがとうございます。

私たちの会「佐呂間郷土研究会」の役割もこれで、一区切りついたと思います。

会員の皆さん、

ごくろうさまでした。

6、8、4 ひろし



さろまむかしむかし

(佐呂間町開基百年協賛)

一九九四年 八月三十一日印刷

一九九四年 九月 一日発行

編集発行 佐呂間町郷土研究会

発行責任者 会長 山内 春芳

事務局 佐呂間町 永代町

八〇一

上伊沢 洋

☎ 015871213810

印刷所 井谷印刷 株式会社

北海道常呂郡佐呂間町字宮前町

イラスト 徳永 良行